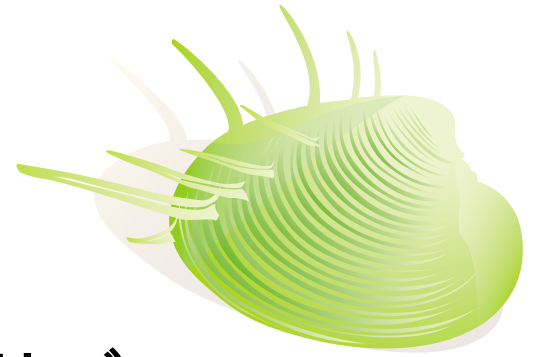


# SCOPE



Coverphoto・Essay / Ikuo Nakamura

## 危険な美人 ネットイミノカサゴ

浅いサンゴ礁の壁面で、まるで会話をしているかのように寄り添う美しいネットイミノカサゴたち。白く長いひれは、身を動かすたびに実に優雅に振られ、まるで新体操のリボン競技を見る思いである。



©IKUO NAKAMURA

観賞魚の代表格でもある魚だが、背びれの長い棘には強い毒が秘められており、刺されるとかなり危険だ。

ネットイミノカサゴ自身、自分の毒の強さを認識しているようで、フィに近づいたりすると、長い背びれを逆立てて、相手に向けて威嚇する。「来るなら来い!」と、言わんばかりである。

海域にもよるが、ミノカサゴの仲間が何匹も集まっている場所にもよく遭遇する。1匹、2匹、3匹、4匹...これはちょっと油断ができないぞ、怖いな、と思うのだが、こちらが動かずにいると、なんとミノカサゴのほうから静かに接近してくることがある。

要するに、こちらが危害を加えなければ、海の生きものたちはけっして立ち向かってくることはないのだ。そう確信はしていても、猛毒を持つ相手が、周囲に何匹もいるというのは、あまり心地のよいものではない。

だが、水槽ではなく雄大な海の中で、間近にながめるネットイミノカサゴは、つつい引き込まれるほど美しい。仮に背びれに毒が無ければ、さらに接近して嫌悪感を与え、さっさと逃げられるのがおちだろ。やはり美しいものには、付かず離れずの距離を保ち、観賞させてもらうのが懸命のようである。

### Profile

#### 中村征夫(なかむら・いくお)

1945年 秋田県生まれ。20歳のとき自己流で潜水を始め、撮影プロダクション水中造形センターを経て77年よりフリーの水中写真家に。著書・作品集は『全・東京湾』『海中顔面博覧会』『白保』(情報センター出版局)、『ガラパゴス』(集英社)、『カムイの海』(朝日新聞社)、『海のなかへ』『熱帯夜』(小学館)、『沖縄珊瑚海道』(アスペクト)など多数。第13回木村伊兵衛写真賞、第9回文化庁芸術作品賞、第12回東川写真特別賞、第28回講談社出版文化賞写真賞、ほか受賞多数。2002年の仕事始めは塩釜市での講演会「海の再生の物語」(1/30(水)マリンゲート塩釜 定員200名)。同会場では、1/21から写真展「海のなかへ」も開催予定。



### 編集後記

新年明けましておめでとうございます。

暗いニュースの多かった昨年の余韻が残り、今年はやや不安なスタート。そんな方は、ぜひ巻頭の「Borderless Life」をご覧ください。今年の企画は、国際社会で活躍する日本人にセルフプロデュースの方法を尋ねるシリーズです。困難を乗り越え、自分で道を切り開いた彼等のパワフルな生き方から、苦しい時代を生き抜くための勇気を分けてもらいます。また引き続き、中村氏の海中写真&エッセイもご紹介していきますので、興味深い海の世界をご堪能ください。(H.K.)

FIND 2002年1月発行 Vol.20 No.1 通巻96号

発行 富士通株式会社 電子デバイス事業本部

企画編集 FIND編集委員会

お問い合わせ先 富士通株式会社 電子デバイス事業本部

FIND編集事務局

〒163-0721

東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル

TEL 03-5322-3351 FAX 03-5322-3395

印刷

株式会社シーコーポレーション